

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 7月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2772500761
法人名	利楽心 株式会社
事業所名	グループホーム自由時館
所在地	大阪府池田市鉢塚2-5-29 (電話) 072-760-4560

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年6月10日
評価確定日	平成21年7月13日

## 【情報提供票より】(平成21年 5月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	12 人
利用定員数計	8 人
常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有( 300,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 400,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

### (4) 利用者の概要( 5月 14日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小川内科 在宅医療おたクリニック 赤沢歯科医院 いずみ歯科
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

池田市鉢塚の閑静な住宅街に位置し、隣には公園や畑があり、ホームからは四季の感じることでできる環境にあります。ホーム内は天窓があり明るく、木の温もりの感じることでできる建物に、家庭的な家具を置き居心地良く過ごすことができる空間があります。開設6年目を迎え、利用者一人ひとりの楽しみ事や役割が続けていけるように努め、生活リハビリを日々取り入れ歩行できるようにしたり活動的な生活を送れるよう支援しています。1年に1度の利用者全員が参加する温泉旅行も大きな楽しみの1つになっています。また、管理者をはじめ職員間の連携が良く、利用者のために会議で話し合ったことを即実行に移しながら、何事にも前向きに取り組んでいるホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の結果を職員間で話し合い、ホーム独自の理念を作りあげたり、居心地の良い空間作りの為にソファの配置換えを行なうなどの取り組みを行いました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各項目を会議で話し合い行いました。職員がサービスを振り返る機会となり、情報共有のための申し送りを始めました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度、家族や老人会長、老人会副会長、町内会長、婦人会会長、地域包括支援センター職員をメンバーとし、運営推進会議を開催しています。ホームの現状や行事について、利用者の様子などを報告し、出席者との意見交換を行っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時にコミュニケーションをとり、意向を聞くように心がけています。家族会も開催したいと考えています。個々の家族の状況に合わせた対応に努めています。また、介護相談員が1ヶ月に1度来られ、直接意見を言う機会も設けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会し、月に1度のふれあいサロンに行ったり、公園の掃除に参加する等地域の方々と交流する機会があります。また、地域の祭りが盛んで夏祭りや秋祭り、菖蒲祭りなどに参加しています。ホームの隣には保育所の畑があり、芋掘りに来た園児を見に行ったり、芋を貰うなどの交流もあります。防災訓練に関しては、運営推進会議を利用し、町会長からも協力的な対応を受け、消防団への働きかけを行っています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の基「みんなの為にあなたがいる あなたの為にみんながいる」という理念を職員間で話し合い作りあげました。理念には、ホームの中だけではなく地域の方々とも共に支え合うことを大切にという思いを込めて作られました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームのリビングに職員の手書きで書かれた理念を掲示しています。会議や朝のミーティングの際に、理念を意識し個々の利用者の暮らしの支援を検討しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、月に1度のふれあいサロンに行ったり、公園の掃除に利用者も一緒に参加する等地域の方々との交流する機会があります。また、地域の祭りが盛んで夏祭りや秋祭り、菖蒲祭りなどに参加しています。ホームの隣には保育所の畑があり、芋掘りに来た園児を見に行ったり、芋を貰うなどの交流もあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は各項目を会議で話し合いまとめました。職員がサービスを振り返る機会となり、情報共有のための申し送りを始めました。前回の評価の結果を職員間で話し合い、ホーム独自の理念を作り、居心地の良い空間作りの為にソファの配置換えを行なうなど取り組みを行いました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、家族や老人会長、老人会副会長、町内会長、婦人会会長、地域包括支援センター職員をメンバーとし、運営推進会議を開催しています。ホームの現状や行事について、利用者の様子などを報告し、出席者との意見交換を行っています。		

グループホーム自由時館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の高齢介護課の担当者には直接、市に出向いたり電話で連絡をとり、相談しやすい関係づくりができており、アドバイスをもらいながら運営に役立てています。また、市から派遣の介護相談委員の受け入れを通して、市の担当者との意見交換の場や2か月に1回、市のグループホームの集まりがあり、市の担当者の参加もあります。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個々の利用者の健康や暮らしぶりを手紙に書き郵送しています。時には利用者自身が家族に向けて手紙を書き、同封することもあります。家族の来訪時には直接話をして報告する他、必要に応じて電話での報告もしています。金銭管理は、立替制となっており、請求書の詳細で使用内容を伝え、領収書を添えて郵送しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時にコミュニケーションをとり、意向を聞くように心がけています。家族会も開催したいと考えていますが、個々の家族の事情もあり困難な状況です。個々の家族の状況に合わせた対応に努めています。また、介護相談員が1ヶ月に1度来られ、直接意見を言う機会も設けています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員がストレスを溜めないように、悩みを聞いたりアドバイスをするなど気を配り、離職のないよう努力しています。異動等があっても時々ホームに来る機会もあり、利用者へのダメージは見られていません。また、新人の職員は馴染み関係ができるまでは現任の指導担当者が一緒に付いてケアにあたっています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、必要に応じての研修があり参加しています。また、外部研修は職員全員が順番で参加できるように考えられています。研修参加後は、報告書を作成し職員会議の際に伝達研修を行ったり、回覧することで研修内容を職員間で共有しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、池田市のグループホームの交流会があり、管理者と計画作成担当者、指導係が参加し意見交換や困難事例検討会を開催しています。今後、職員同士の交換研修も行っていきたいと考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染めるか不安のある方には、体験利用や見学に来てもらい入居を決めています。入居前の生活状況について家族や利用していた介護サービス事業所から情報を得て、入居後の環境を整えケアの方法について検討しています。入居後も家族と連絡を密にし、ホームでの生活に馴染めるように支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に生活しながら支援することで、調理の方法や皮のむき方、漢字の読み方などを教えてもらったり、一緒に何かできた事を喜び、悲しいテレビを見て泣いたりしながら支え合う関係を築いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から聞いたことや直接利用者を支援しながら、アセスメントシートや介護記録に利用者の希望や意向を記入しています。申し送りや会議の場でも本人の思いや希望について検討しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成や見直しの際には、サービス担当者会議を開催しています。家族の意向を予め聞いておき、計画作成担当者を中心に職員や社長、同法人の在宅ケアマネージャーなどの参加があり、様々な意見をもらい作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的に介護計画の見直しを行っています。見直しの際には毎回アセスメントを行ない、利用者の変化を捉えています。また、状況に変化のあった場合には、その都度見直しを行っています。	○	日々の介護記録は、介護計画について関連付けたものになっているのかがわかりにくく、介護計画の実施についての評価ができていない状況です。日々の様子がわかると共に介護計画に沿ったサービスの実施状況がわかるように工夫されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期の病院受診の同行やシャンソンなどの習い事の送迎など利用者や家族の希望に合わせて支援しています。家族と外出する際に車椅子のまま出かけた際には介護タクシーを紹介したり、年に1回利用者全員で家族にも呼びかけ旅行に行くなど、ホームでできる限りの対応をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談し、入居前からのかかりつけ医を継続するかを決めています。受診の同行を行っており、かかりつけ医との連携がとれています。また、提携医からは月に2回の往診があり24時間連絡がとれる体制ができています。訪問歯科は利用者の希望や状況に合わせて月に1回以上来てもらっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には、常時医療が必要になった場合や食事を食べることができなくなった場合には入居継続ができないことを説明しています。認識を同じにすることやできないことを明確にし、できる限りの看取りまでの支援をしていきたいと考えています。重度化された場合、家族と医師、職員等が利用者にとって何が良いか話し合いを重ね対応しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩であることを念頭に置き、家庭的な言葉遣いを心がけています。排泄や入浴に関しては、特に男性の利用者には同姓介助や自立支援を心がけプライドを傷つけないような対応をしています。また、個人情報の入ったファイルは、鍵付きの書庫に適切に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から睡眠まで時間を決めておらず、起きてきた利用者から朝食を摂ってもらっています。職員のある時間帯には、入浴や散歩、買い物など希望に合わせて一日が過ごすことができるよう支援しています。		

グループホーム自由時館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1か月分の献立はおおよそ決まっていますが、その日食べたいものを利用者から聞き変更することもあります。買い物や調理、味見など利用者と一緒に食事を準備し、食事や後片付けも一緒に行っています。職員は、利用者と同じものを食べ自然な流れで声掛けや食事介助をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外、毎日午前中から夕方までの間で、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴できるように支援しています。体調や必要に応じてシャワー浴や足浴、清拭を行っています。また、入浴拒否傾向の利用者には、声のかけ方やタイミングを工夫し、家族に協力を得たりしながら、2日に1回は入浴できるように支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭きを役割と思っている利用者が複数おり、取り合いになるため役割表を作っています。シャンソンの習い事やピアノの練習などの趣味や喫茶店に行くことを楽しみにしている方もおり、個々の楽しみごとが持てるよう支援しています。重度化し居室で過ごしている方の部屋には好きな音楽を流したり、職員とのコミュニケーションも楽しみになっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物には毎日出かけています。時には近隣の五月山公園などに弁当を持って行く事もあり、日々外出できるよう支援しています。1年に1回は利用者全員で1泊の旅行にも出かけています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の希望もあり、ホームの入り口に鍵をかけています。また、玄関には開けるとチャイムがなるようになっており、外出を察知できるようにしています。外出を希望するときや仕草が見られたときには、職員と一緒に付き添い外出できるように支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回ホーム独自で消防訓練を行っています。また、職員の入職時には、その都度消火器の使い方や点検について研修しています。運営推進会議を利用し、町会長からも協力的な対応を受け、消防団への働きかけを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士の資格を持つ職員がおり、栄養バランス等にアドバイスをもらいながら献立をたて、嚥下機能低下の方の食事形態や糖尿病の食事についてアドバイスももらっています。また、毎日ビールを飲んでいる方や嫌いなものの代替を準備したり、好みに合わせた支援を行っています。食事量や水分量はすべて記録に残しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手すりや扉、戸棚など木のぬくもりを感じられる共有空間には、季節の花など飾られ落ち着くことができる雰囲気があります。食卓やリビングのソファーも家庭的で、利用者が思い思いの場所で、食事の準備をしたりテレビを見たりゆったりと過ごしています。また、トイレのごみ入れは利用者が使いやすいように置く場所を高くしたり、生活しやすいようにソファーの位置を変えるなどの工夫をしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前から使用していた家具や日常品を持ってきてもらうよう説明しています。ベッドや飾り棚、洋服掛け、椅子などの家具を置き、ぬいぐるみや鏡、写真、家族がもらった賞状などを飾り、その人らしい居室となっています。		